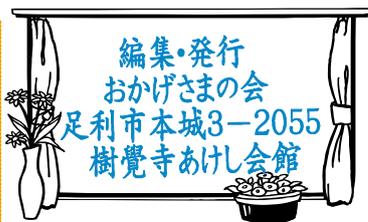


# おかげさま



あなたは、ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノ (José Alberto Mujica Cordano) という人をご存じでしょうか。今年の4月5日に、日本を訪れています。若いころ歩んだ<sup>うれつ</sup> 壮烈な人生とは裏腹に、大変人懐っこい笑顔の、はっきりものを言う、70歳半ば過ぎのご老人です。

そうですね、「世界一<sup>だいてりょう</sup> 貧しい大統領」として有名な人。ブラジルとアルゼンチンに挟まれた小さな国ウルグアイの第40代大統領 (2010年3月1日より2015年2月末) エル・ペペさんですね。



あの、2012年6月20～22日に、リオデジャネイロ (ブラジル) で開催された「<sup>じぞくかのう</sup> 国連持続可能な開発会議 (リオ+20)」での、世界中の人びとを感動させたスピーチで知られていますね。

会議のテーマを、「持続可能な発展と世界の貧困をなくすこと」と確認

したうえでお話しされました。

昔の<sup>けんめい</sup> 賢明な方々、エピクレオ、セネカやアイマラ民族までこんなことを言っています  
「貧乏なひととは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」の言葉で知られていますね。

日本に紹介されたのは、2014年に発行された「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」という題の絵本でした。

世界の国々の指導者が一堂<sup>いちどう</sup> に会して話し合う真の問題点を、

我々の前に立つ巨大な<sup>きき</sup> 危機問題は環境危機

五年前の東日本大震災は、地震や津波に誘発された原子力発電所の事故によって、未だに復旧のめどがついていません。その中、四月十四日に始まった熊本大分地震は、常識では図り知れない展開で、未だに終わる気配がありません。

被災された方々にお見舞い申し上げます。一日も早く日常をとり戻されますように念じます。

合掌  
樹覚寺住職 釋純英

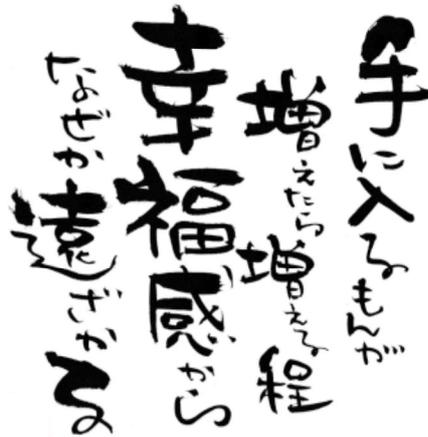
ではありません、政治的な危機問題なのです。

みなさんには水源危機と環境危機が問題源でないことを分かってほしいのです。

根本的な問題は私たちが実行した社会モデルなのです。そして、改めて見直さなければならないのは私たちの生活スタイルだということ。

発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つこと、そして必要最低限のものを持つこと。これらをもたらすべきなのです。

本当の意味で成熟した人間でない限り、自分が好んでいる手中のたま珠を、それは危険だから捨てなさいと言われても、捨てられないばかりか、余計に力を込めて握りしめてしまうだろう。競争をして、他人を蹴落としてまで手に入れた幸せ。パイの大きさは変わらない



よ、早く奪わないと食べ損なうよ、早い者勝ちだよと、国に煽られ社会に煽られ、欲望のままに意味をも知らずに突き進む日本人には聞こえてこないかな。

幸福が私たちのもっとも大切なものだからです。環境のために戦うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であるということをおかなくてはなりません。

近代文明の発展は、人類の拡大する欲望と共にありました。自らの欲望を満足させるための地球というパイには限りがあります。ある程度手に入れている者と未だ手に入っていない者、様々な立場があります。そこで出てくるのが、「総論賛成、各論反対」という、意見は一致しても実効性のない結論です。小田原評定の果てには何が待っているのだろうか。

万人の幸せという視点でもう一度見直さなければならないと、声をあげていこう。

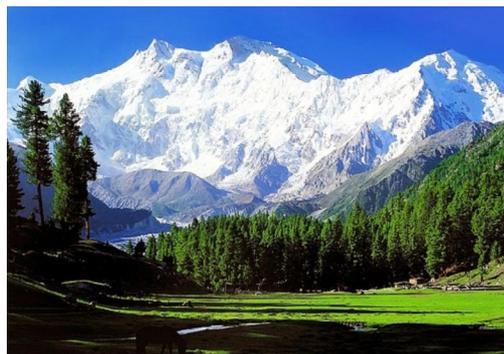
(樹覚寺純英)

## あけし酔話

## お釈迦様の生涯 苦悩

「マヌ法典」では、人生を学生期・家住期・林棲期・遊行期に分けます。

学生期は、師について学問。武芸を学び、家住期は、結婚して家業にいそしみ、後継者を育て、林棲期は森へ入って修行し、その後の遊行期は、あらゆる執着を離れて各地を遍歴するということが理想とされていました。



学生期には、入門式をして師事をするのですが、この時期にも規定があり、バラモンは妊娠後八年目、クシャトリアは妊娠後十一年目、ヴァイシャは妊娠後十二年目に入門することになっていたようです。どうやら、古代のインドでは、生命の始まりを出産の時ではなく、受胎の時とみていたようです。

ともあれ、少年シッダッタは規定により、入門式(ウパナヤナ)を受け、学生期に入りました。

それぞれの師につき、学問や武芸を習ったシッダッタですが、武芸が並々ならぬ腕前だった以上に、学問の分野では非凡な才能を示し、しばしば教師たちを驚かせるほどでした。

シッダッタが七歳の春のことでした。農耕初めの祭りが執り行われることになり、シッダッタは父王や大臣とともに出席し、農夫たちが鍬や鍬で大地を耕す様子を見物することになりました。

春の遅い北インドでは、花はいっせいに咲き揃い、人々の注目を集めます。うらかな陽光に、野にも山にも生命の息吹が満ちあふれ、吹き渡る風は心地よく大地の香りを運んできます。春ののどかな光景がシッダッタの眼前に広がっていました。

そんな中、一鍬一鍬に心を込めて大地を耕す人びとの姿がありました。皆の額には汗が美しく輝いています。彼らが鍬を振り下ろして掘り起こした土の中に、まだ冬の眠りから覚めやらぬ小さな虫がいました。目ざとくその虫を見つけた小鳥がその虫をついばむと、今度はその小鳥をねらって猛禽が現れたのです。

シッダッタは、目の前で自らの命を保つために、他の命を奪わねば生きることができない現実を突きつけられ、考え込んでしまうのでした。

「これは動物たちだけの話ではない。私の存在そのものが、まさにその通りで、たくさんの命を奪わなければ一日たりとも生存できない。【つづく】





# あけし あれこれ なつぐみ (夏茱萸)

春には次々と花が咲き、あちこちと目移りして気づかなかつたのですが、淡黄色の小さな可愛い花が櫻の花のように軸の先に下を向いて沢山咲いています。香りもしているようです。

何の花かなと思いましたが、ナツグミの花でした。

グミはいろいろ種類があることが判りました。梅雨の頃に、赤い可愛い果実が沢山なります。ナツグミの果実は他のグミの果実よりおいしいようです。



## ナツグミ (夏茱萸) グミ科グミ

アキグミと同じ葉落性で春咲きのグミ。山野の雑木林や道端などに生える。

葉の腋に淡黄色の花を数個、下向きにつける。花びらに見えるのは4枚の萼片で、花には芳香がある。果実が5～7月に赤く熟すことが名前の由来。



果実は楕円形で長い果枝があり、アキグミに比べて大きく味もよい。果実を食用にするために庭木にされることも多い。

### グミの他の種類

アキグミ。マルバグミ。ナワシログミ。トウグミ。ダイオウグミ。など